



鏡石町長 遠藤 栄作

「かわる、かがやく、“牧場の朝”のまち かがみいし」  
の実現に向けて

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様には、平成25年の新春をお健やかに迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。また、町政の推進にあたり、日頃よりあたたかいご理解とご協力をいただいておりますこと心から厚くお礼申し上げます。

さて、震災から1年10ヶ月が経過しようとしておりますが、被災者支援、インフラ・公共施設の復旧事業などこれまで全力で取り組んで参りましたが、まだまだ、いたらないところも多々あるうかと思えます。今後も、震災からの復旧・復興と放射能除染対策について引き続き最優先の課題として取り組んで参ります。

昨年は、町制施行50周年の節目を迎え、「かわる、かがやく、牧場の朝のまち かがみいし」を町の将来像として掲げた第5次総合計画（平成24年度から10年間のまちづくりの基本構想）が動きだし、町民と新たな気持ちで二丸となつて、将来に向かって歩んで行くスタートの年となりました。

また、復興元年の年でもあり、全壊した鏡石三区コミュニティセンターも完成し、念願であります鏡石町立第一小学校校舎新築事業につきましても、12月に着工いたしました。予定では、平成26年1月には完成し、3学期からは子どもたちが新しい教室で勉強できることとなります。小学校敷地内には、児童ふれあい施設（放課後児童クラブ）の併設も予定され、復興のシンボルとして進化して参ります。

本年は、昨年全行政区で実施した町政懇談会での貴重なご意見を町政に反映させ、進化する鏡石実行プロジェクトを推進し、「駅に降りてみたくなる事業」「通りを歩いてみたくなる事業」「住んでみたくなる事業」を推進して参りたいと考えております。

これからも町民にとってどうあるべきかを第一に考え、どのように改善すべきかを検討し、実行に移して参りますので、本年も格段のお力添えを頂きますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



鏡石町議会議員

渡辺 定己

鏡石ブランドのイメージアップで「かがやく、町に

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

町民の皆様には、震災の影響が色濃く残る中にも、力強くご健勝にて新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

また、平素から議会活動に、多大なるご支援、ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、私達にとりましては東日本大震災と福島原発事故による放射能被害は未だ大きな脅威となっており、それぞれに複雑な心境の中、新年をお迎えになられた方も多いのではないのでしょうか。

しかし、昨年は鏡石第一小学校改築工事の起工式も行われ、わずかながら復旧と復興に向けた道のりが見え始めたとも感じられます。第一小学校新校舎は将来の町を担う子どもたちが学ぶ場であり、復興に向けたシンボルともなるものです。一刻も早い完成が待ち望まれます。

町議会としても、この苦難の時期に町民の皆様とともに安心安全のまちづくりに取り組むべく、鋭意努力を重ねて参りましたが、昨年6月には開かれた議会を旨として、鏡石町初となる「休日議会」を開催したところでもあります。当日は多数の町民の皆様が傍聴席を埋め尽くし、8名の議員が一般質問に登壇いたしました。これからも議会の活性化を図り、町執行や関係機関へ町民皆様方の生の声をお届けできるように、議員活動に努める所存であります。

一方、放射能風評被害は本県に対して大きなマイナスイメージを植え付け、ゲンパツ・フクシマは今や国際的なワードとして喜ばしくないイメージが定着しております。こうしたマイナスイメージを払いのけ逆に、プラスに転ずる施策が強く望まれます。

近年はご当地キャラクター等もマスコミに取り上げられることが多く、本町にもイメージアップにつながるような、復興キャラクターが出現しないのでしょうか。お正月の夢枕に「かがやく鏡石のイメージキャラクター」が立ち、それが現実のものとなることを祈念するものです。

我々議員もイメージアップ戦略には努力と協力を惜しまない覚悟であります。町民の皆様が一日も早く復旧復興を実感され、日々の生活に震災以前の笑顔が戻るように全力を傾注して参る所存であります。年頭に当たり、町民の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、今年もより一層のご支援を、お願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。

